

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

若者憲法集会2026 高校生関連企画

6、7面

世界に誇るべき憲法の平和主義②

3面

イラン戦争にみる米軍基地の危険性

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

「改憲反対」「憲法9条守れ」 全国の青年の思い一つに



▶ 午後のメイン企画のようす。昨年を上回る大勢の青年が集まり、佐藤さんの話を熱心に聞いた(5月31日、都内)

若者憲法集会2026

戦後最大の危機

5月31日、東京都内で「若者憲法集会2026」が開催されました。集会には有楽町朝日ホールおよび同ホール内第二会場に約1000人、デモ行進(12面詳報)には約2500人と、昨年を大きく上回る人数で沿道の人々にアピールしました。世界情勢の緊迫が続く、高市早苗政権が改憲に前のめりの姿勢を強めるなど「戦争国家づくり」がいよいよ明白になっています。そんな中、憲法を守り、戦争国家づくりを許さないという思いを持つ青年が全国各地から多く結集した集会のようすを伝えます。

(栗山さつき記者)

午後に行われた若者憲法集会のメイン企画では、東京大学名誉教授の佐藤さんが講演しました。まず佐藤さんは、この間の高市早苗首相の発言を踏まえ、日本国憲法がいま戦後最大の危機を迎えていることや、

自民党が「四つの憲法改正課題」の中で特に「9条への自衛隊明記」「緊急事態条項」をねらっていることについて紹介しました。

戦争できる国に変わる

次は佐藤さんは憲法9条が何を定めているのかについて詳しく触れました。憲法9条は第1項で戦争放棄を定めていること、「戦争によって国際間の問題の解決は行わない」「永久に戦争をしない」と宣誓したこと。第2項「前項の目的を達成するために、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない」「国の交戦権はこれを認めない」とことや「戦争放棄、戦力の不保持、交戦権の否認」を定めていることを説明しました。

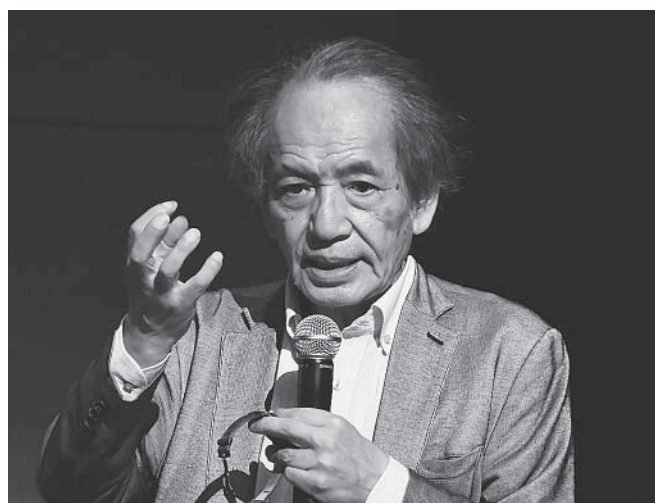
改憲の危険性

続いて、憲法9条ができてから日本でのような役割を果たしてきたのかについて触れました。第二次大戦後、戦争をしなかった国は日本を含む7カ国だけですが、日本は憲法9条によって戦争に参加せず、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争など、米軍が

一方で、長年憲法9条を守ってきた日本で2014年以降の安倍政権下で集団的自衛権の行使容認に始まり、最近では武器輸出三原則が破られ軍事拡大に邁進してきたことなど、自民党政治下での「戦争国家づくり」の動きについて紹介しました。

また、佐藤さんは「日本のポイントが2つある」と言います。1つ目は、米軍基地が他国から狙われ、そこではマッカーサー司令部が最前線に立っている日本人が犠牲になっただけで、反撃する能力がないこと。2つ目は緊急事態条項を作り、内閣総理大臣の権限を集中させることを出し、国会ですべてを決定することです。そして、緊急政令の承認は事後承認でいいため、国会に諮らず単独で戦争を起すこともできる点について触れました。

講演の最後に佐藤さんは「18歳当時、初めてデモに参加したことが、戦争や暴力、差別がなく自由な社会をつくるために教育者を志した空気が、アメリカの戦争にも巻き込まれる危険性があることを指摘しました。佐藤さんは、今回の改憲



▲講演する佐藤さん(5月31日、都内)

また、佐藤さんは、日本ではではない。あきらめずにたたかきましょう」と力強く締めくくりました。会場からは大きな拍手が送られました。

集会の最後には、民青同盟の西川龍平中央委員長が閉会あいさつの中で「若者憲法集会2026アピール」を紹介。西川中央委員長は「軍事費に予算を割くよりも教育によって若者を育て、未来の社会を準備するのが当たり前だ」と強調しました。

集会参加者からは「最初から『内容によっては改憲しない』と断っていた。『改憲の危険性』を聞いて、自民党が『9条への自衛隊明記』『緊急事態条項』という改憲案をうたっている現実を知り驚いた」「改憲の内容がはらむリスクを多くの人に知ってもらいたい」という声が多く聞かれた。

「憲法制定の経緯や意義を知り、政権がねらっている戦争への道を防ぐために、行動していくことが重要だ」とあらためて思った。「草の根の活動がどんどん広がるように自分ができることをしたい」との感想が寄せられました。